

三浦豪太さん講師に迎え

市立高・中部で80周年講演会

市立高・中部部(伊藤直美校長)の創立80周年記念事業の一環として、全校生徒800人余りを前にプロスキーヤーで登山家の三浦豪太(みづら・こうた)さんを招いた講演会が20日、同校体育館で開かれた。講演に続いて記念植樹が行われた。

自身のスキー人生を語る

父親雄一郎さんのエピソードも

講演会は、市立高同窓会「求道会」の高野貴好会長が委員長を務める実行委員会主催で開かれ、はじめに高野委員長が市立高の成り立ちを説明。1946(昭和21)年4月20日、旧制沼中(現・東高)の教頭だった石内直太郎先生の尽力で設立され、初代校長に就任して80年を迎えたことを話し、「今年度は記念事業がたふさん行われるが、皆さんと一緒に祝いたい」とあいさつした。

続いて伊藤校長が「学校には先人達がつないできた縦の歴史、地域の皆さんがつないでくれた横のつながりがあり、皆さんは、その真ん中に立ち、これから学校の新しい歴史を作っていく。明日への夢を見つけ、歩み続けよう」とあいさつした。

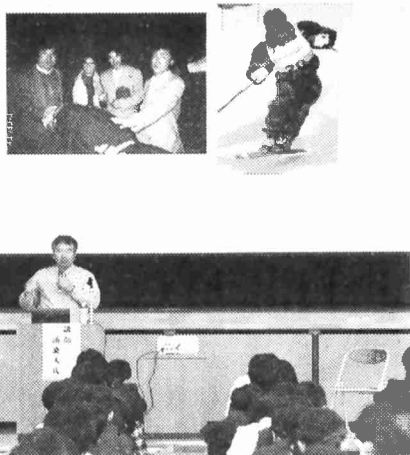
講演会では、市立高の自らの夢を追いかけて進んでいった高野貴好会長のエピソードが紹介された。高野氏は、父親の雄一郎さん(本名・三浦雄一郎)の紹介で、プロスキーヤー、登山家、実業家として活躍する58歳で、冒険家三浦雄一郎氏の次男。91年から日本代表選手として、フリースタイルスキー競技男子モーグルのオリンピックとなり10年間、全日本タイトル獲得や国際大会等で活躍。父と共に世界最高峰のエベレストに登頂して日本初の親子同時登頂記録を残す一方、オリンピック解説者として、詳しく過る解説が人気を呼んだ。

三浦さんは講演の中で、まずは自身のスポーツキャリアについて話し、3歳でスキーを始めたが、高校時代は全く成績が残せず、初めての表彰台は20歳だった。当初はアルペン競技を行っていたが、絶望的に才能がなく、大会では下から数えた方が早いほど。1日6、7時間の練習

緑の鮮やかな季節です
園芸に関することなら何でも
お気軽にお尋ね下さい。
切り花も揃っています

沼津農園
園芸と生花の本拠地25-30(雲山寺となり) ☎931-4187
営業時間: 9:00~18:00(1月・2月は17:00まで)

三浦さんは講演の中で、まずは自身のスポーツキャリアについて話し、3歳でスキーを始めたが、高校時代は全く成績が残せず、初めての表彰台は20歳だった。当初はアルペン競技を行っていたが、絶望的に才能がなく、大会では下から数えた方が早いほど。1日6、7時間の練習



「オリンピックからエベレストへ」をテーマに講演する三浦さん＝市立高体育館で

モータールとの出会いにより考え方が大きく変わり、「どうやったら、この競技がうまくなるか」という考えに変化。小さな大会に始まり、全日本、海外遠征、ワールドカップへとステップアップする中で、「コーチの話をお聞きしたことが、自分にとっての重要な学びだった」と振り返る。

次に、エベレスト登山について。エベレストを最初に滑降したことで知られる父親を紹介し、「三浦家にはスキーヤーと冒険家という2つの顔がある」とし、2013年、父親が80歳で3度目のエベ

を続けても成績が伴わず、努力だけに意識が向いてしまし、何も考えずにトレーニングを繰り返していた。その後、一度スキーをやめて1年程、競技から離れた後、スキー場でフリース

防率40%、糖尿病などの問題があり、母親からは「お父さんを殺す気?」と止めようと言われたが、エベレスト登山に向けて数年かけて体を作った三浦さんは、無事に登山を果たした。75歳で2度目のエベレスト挑戦を前に、心臓の不整脈が発覚し、医師からは「裸で吹雪に飛び込むようなもの」と警告された。最終的に賛成してくれた医師を見つけて数回の手術を受けて挑戦し、2度目の登山を果たした。

80歳でのエベレスト挑戦を前にした76歳の時、スキージャズに失敗して骨盤を真つ二つに折る深刻な怪我をしたが、骨密度が20代レベルで、手術はせずにリハビリで回復。筋肉量は過去最高で20代のオリンピック選手レベルを維持し、「目標を持つことが、いかに人の体に影響するかを見せつけてくれた」と話した。

最後に、三浦さんは「心の壁」について語り、イギリスのロジャー・バニスタ選手が1950年代の1マイル(1600m)走で4分の0.0秒で走ると、壁を初めて破ると、その後、すぐに18人が同様の記録を達成した事例を紹介し、「絶対に不可能だと思われていた心の壁が壊されたことで、記録を超える人が現れた。何かに挑戦したいと思った時、自分から心の壁を作らないようにしてほしい。僕はオリンピック出場、父は70歳を超えてエベレスト登山を達成できた。夢があれば、それを掲げてチャレンジしてほしい」と呼び掛けた。

選手入場の花道形成がある。雨天決行だが、試合の中止、気象警報や事件事故の発生などにより中止する場合があります。

か、やりたいことに対して愛があるかが大事で、「高い山はすぐには登れないけれど、低い山から少しずつ登っていき、高い山も登れるようになる」と答えた。講演会の後、記念植樹式が開かれ、同校教諭で俳人として知られた渡辺白泉(威徳)が1939年(昭和14年)に発表した後継俳句の代表作「戦争が廊下の奥に立つてゐた」が刻まれた石碑の裏にユズリハを植樹。

高野実行委員長は、創立70周年では、この石碑の横に枝垂れ桜を植樹して大きく成長したことに触れた上で、今回のユズ

リハは「春に新芽が伸びると役割を終えた古い葉が落ちていく。古い世代が若い世代の成長を見届けて隠居するように生徒達を見守り、市立高の発展を願う」とのたとえで、伊藤校長は「世代を受け継いで将来につなぐたい」と話し、生徒会役員と共に植樹した。

市立高・中部部(伊藤直美校長)の創立80周年記念事業の一環として、全校生徒800人余りを前にプロスキーヤーで登山家の三浦豪太(みづら・こうた)さんを招いた講演会が20日、同校体育館で開かれた。講演に続いて記念植樹が行われた。



ユズリハの記念植樹を行う高野実行委員長(右から2人目)と伊藤校長(左)、生徒会役員＝市立高で

沼津仲見世商店街の公式ホームページ
全面リニューアル!
ホッとする商店街

沼津仲見世商店街 検索

大切な人だからこのタイヤ
路面に一番近いからこのタイヤ
命を守るものだからこのタイヤ
安全を売るプロショップ
お客様と共に考える

YOKOHAMA

太陽熱
OFU商品
省エネ
エコジョ